

令和6年度 山形県立博物館 特別展

「海に入るまで濁らざりけり — 『母なる川』最上川 —」の概要

1. 会期 **令和6年6月1日(土) ～ 8月18日(日)**
9:00～16:30 (入館は16:00まで)
2. 会場 山形県立博物館 (山形市霞城町1番8号《霞城公園内》)
3. 展示構成 《第1部》最上川を詠む ～文学からたどる～
《第2部》最上川を描く ～川絵図からたどる～
《第3部》最上川に生きる ～人々の暮らしと最上川～
4. 展示物 県指定文化財の「羽州川通絵図」や「松川舟運図屏風」に加え、「最上川通絵図」
「須川・最上川絵図」など最上川を描いた川絵図、「五月雨歌仙(複製)」や
「おくのほそ道」、「茂吉短歌掛軸」など近世～近代の歌人に関する資料など
※詳しくは今後当館 HP・SNS 等でお知らせいたします。
5. 関連イベント
 - 6月 1日(土) 展示解説会 ① 13:00～13:30
 - 6月 22日(土) 記念講演会 ① 13:30～15:30
「最上川舟運で行き交うモノと文化・暮らし —民俗学の観点から—」
講師：菊地和博氏(東北文教大学人間科学部特任教授)
 - 7月 6日(土) 展示解説会 ② 13:00～13:30
 - 7月 27日(土) 記念講演会 ② 13:30～15:30
「最上川水運と河川絵図の特色」
講師：小野寺淳氏(放送大学茨城学習センター所長、茨城大学名誉教授)
 - 8月 3日(土) 展示解説会 ③ 13:00～13:30
 - 8月 4日(日) 記念イベント ① 時間未定
紅花や青苧を使ったアクセサリーブづくり
(協力：山形県立村山産業高等学校 みどり活用科草花班)

○学芸員イチオシ展示とイベント

- ・最上川舟運研究の第一人者である柴田謙吾が、20年の歳月をかけて作成した全長40mの川絵図
- ・江戸時代の特産物であった、紅や青苧を使ったアクセサリーブづくり
(協力：山形県立村山産業高等学校みどり活用科草花班)